「雪氷」70 巻の編集でお世話になったレフェリーの方々

秋田谷英次	阿部　修	石坂　雅昭	和泉　薫	伊藤　陽一
遠藤八十一	小野　延雄	河村　俊行	木村　茂雄	熊倉　俊郎
小杉　健二	媚山　政良	高橋　修平	対馬　勝年	遠山　和大
西村　浩一	納口　恭明	早川　典生	山崎　剛	山田　雅彦

（敬称略，あいうえお順）

編　集　後　記

ある日の朝のこと，新聞に入っていた広告をうちの息子がめざとく見つけ，「これなあに？」と聞いてきた．息子の指したチラシはおもちゃやさんの広告．現在ちまたで流行っている○×ジャーのおもちゃを指さしていたのだった．○×ジャーだよと教えると，息子は「ねえ，ナダレンジャーは？」と聞いてきた．

実は今春，たまたま子供を連れて行ったショッピングセンターで，ナダレンジャーに遭遇した．このとき，他の子供達はかぶりつきでナダレンジャーが説明する「固有振動数」を元気に復唱していたのであるが，うちの息子はナダレンジャーの奇怪な格好が相当怖かったらしく，ステージから遠いところで，ただ一人大きな声で泣き叫んでいた．

このときのことが強烈な印象として息子の記憶に残り，○×ジャーと聞くと，まずはじめに浮かぶのがナダレンジャーだったのだろう．最近よくしゃべるようになった息子は，このときカメラで撮ったナダレンジャーを見ながら「ナダレンジャーだ．大きくなったから怖くないよ．」などと強がりを言ってみることもあった．

さて，今年の雪氷学会全国大会への参加のため，生まれて間もない娘のシッターやら何やらと準備に相当の時間を割いた．しかし大会の始まる前の晩から図ったように熱を出した息子の看病と病院通いでそれも全て水泡に帰した．

最終日，かろうじて熱の下がった息子と娘を連れて雪氷楽会に参加した．さすがは東京大会．各コーナーは寄りつけないほど盛況で，なかなか割り込めない．それでも昨年の富山大会は水分子模型をおもちゃがわりに遊んでいただけの息子だったが，今年は地形変化の模型に見入って説明を聴き，ビーコンを触らせてもらい，雪の酸性度をリトマス紙ではかり，お気に入りの動物の絵が彫られたハンコを押してもらい等々参加することができ，一年間の間の成長がよくわかったことであった．

ちなみにナダレンジャーのショーだけは最初は無言で見ていたものの，次第に怖くなったのか「おうちに帰る」と泣き出し，なだめるのに一苦労．このように怖がり屋の息子のため，未だに私はナダレンジャーのショーをゆっくり見ることができず残念に思っている．親子そろってゆっくりと楽しめるのはいつの日になるのだろうか？

今年も大会実行委員，その他の皆様本当に御苦労様でした．しばらくは子供に振り回される日が続きそうですが，やはり一年に一度は雪氷のみなさんにお会いしたいので，私なりのやりかたで，いろんな方にお世話になりながらこの学会に参加していきたいと考えています．来年もよろしくお願いします．

（坂井亜規子）